

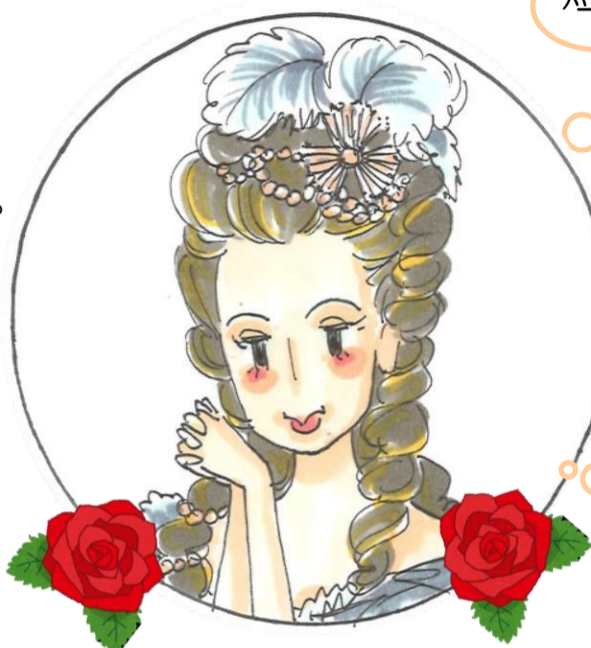


～キラキラお姫様の世界～

光り輝く宝石、豪華なドレス、舞踏会に素敵な王子様……。お姫様の世界はなんてキラキラで華やかなのでしょうか！2次元と3次元を合わせたらそれはそれはたくさんのお姫様がいます。あなたの好きなお姫様は誰でしょうか。今回のVoice!では、世界で一番有名なお姫様の一人であろう（たぶん）マリー・アントワネットを紹介します。世界史が苦手な人も名前くらいはきっと聞いたことがあるはず！マリー好きな人も、「マリー・なんちゃらって誰やねん」という人も是非、楽しんでってください！

マリー・アントワネット (1755年～1793年)

フランス王ルイ16世の妃。
フランスとオーストリアの友好の証として14歳でフランスにお嫁に行く。ルイとの間に4人の子ができる。（うち2人亡くなる）1789年にフランス革命が起こると、フランスが財政難にも関わらず国のお金を好きなように使って、さらに国民を苦しめた「赤字夫人」として1793年にギロチン刑に処される。盛りに盛ったヘアアレンジと「パンが無ければお菓子を食べればいい」というセリフが有名。少女時代の肖像画がびっくりするほどかわいい。



Marie Antoinette

性格

長所：優しく親切、活発
短所：軽率、遊び好き、不注意

好き

ダンス、歌、おしゃれ
楽しいこと

嫌い

勉強、読書

マリーの秘密、その①

そんなこと言っていない…

「パンが無ければお菓子を食べればいいじゃない」マリーが言ったという言葉として有名ですが、実はマリーが9歳のころに書かれたまったく別人の伝記に出てくるセリフなのです。明日のパンに苦しむフランス国民の、国に対するたまりまくった日頃のイライラが、この言葉を「王妃のセリフ」として定着させてしまったのかもしれませんが…。

マリーの秘密、その②

え、わたしのせいなの？

フランス革命の原因の一つである深刻な財政難は、マリーの度を越した贅沢三昧からだと言われていました。しかし本当の原因は、ルイ16世より前の王様が戦争でお金をたくさん使ったことでした。マリー1人の贅沢くらいでは国がどうにかなってしまうわけでは無かったのです。

マリーの秘密、その③

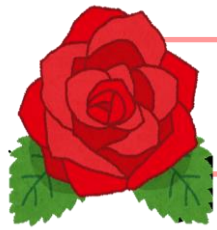
実家は大家族

夫との間に4人の子どもができたマリー。（うち2人亡くなる）今の感覚で6人家族って聞くと「多いな！」と思ってしまうのですが、マリー自身、兄弟がめちゃめちゃ多いんです。その数なんとマリーを含めて16人！マリーは両親の15番目の末娘でした。早くに亡くなってしまった兄弟もいましたがそれでも10人の兄弟がいます。

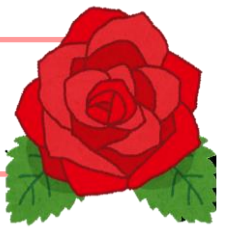
マリーの秘密、その④

わたしのお母さん最強（物理的に）

マリーのお母さんの名前は「マリア・テレジア」といいます。このマリア・テレジアという人は、今より比べ物にならないくらい男社会だった当時、周りの男性をなぎ倒してオーストリアという国を守った最強統治者なのです。次ページでは、マリーの実家家族を数人ざっと紹介します！



華麗なる実家の家族プロフィール



母：マリア・テレジア

マリーの母は最強女子。23歳という若さでハプスブルク家のリーダーになったテレジアは、夫フランツとの間に16人の子どもをもうける。その妊娠中の間もバリバリ政治手腕を発揮し、周辺諸国からオーストリア・ハプスブルク帝国を守り抜いた。この事から「女帝」や「ヨーロッパの祖母」と呼ばれる。夫フランツとは、この時代には珍しい恋愛結婚。出会った時からフランツが大好きで、フランツが亡くなるとその後を喪服で過ごした。若いころの肖像画がこれまたびっくりするほどかわいい。

父：フランツ・シュテファン（神聖ローマ帝国皇帝フランツ1世）

嫁が最強すぎて、影が薄いが心優しく楽天的なマリーのお父さん。マリア・テレジアと結婚し、神聖ローマ皇帝位を継ぐ。しかし政治は苦手。苦手なりに協力したくて1度意見を言ってみたものの的外れで、それが恥ずかしくて二度と政治に口を出すことはせず妻テレジアに任せていた。ただ、お金の管理は上手だったため、妻の政治をお金の面から支える。ちょくちょく浮気はしました。



姉：マリア・クリスティーネ

母テレジアに一番可愛がられたマリーのお姉ちゃん。家族からの愛称は「ミミ」。テレジアは、子ども達の兄弟間えこひいきが激しく、クリスティーネはテレジアの一番お気に入りの娘だった。本人もそれを自覚しており、母に可愛く頼んで身分の違う好きな人との恋愛結婚を許してもらおう。その際、お金もたくさんもらい実家近くに住むこともOKだった。しかし兄弟からはウザがられており、母が亡くなって家のリーダーが兄のみになると、さっさと遠くに追いやられてしまう。

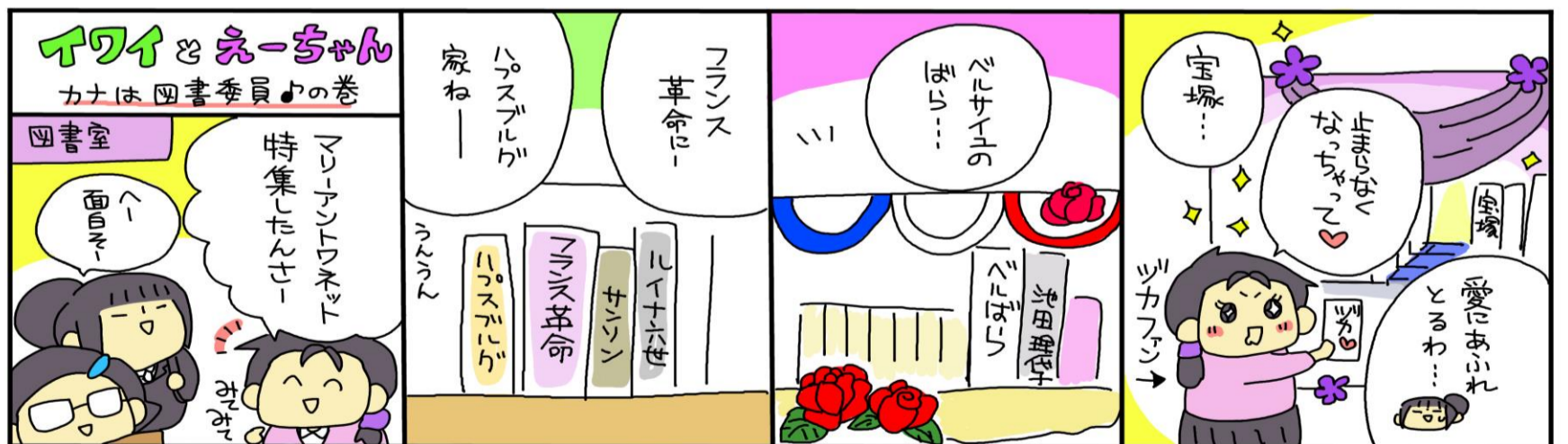
姉：マリア・アマーリエ

最強母に抵抗しためっちゃ我が強いマリーのお姉ちゃん。母の政治の駒として、イタリアにお嫁入りさせられそうになった時、アマーリエには身分違いの彼氏がいた。姉のクリスティーネそして母テレジア自身も恋愛結婚をしたため自分も彼氏と結婚させてほしいと頼んだがあっさり却下され、無理やり嫁がされる。その結果、嫁ぎ先でグれる。嫁ぎ先に付いてきた自分のお目付け役を追い払い、国の偉い人を無視し、そしてもちろん浮気をした。母からのお小言いっぱいの手紙も無視し、ついに実家を勘当される。それにアマーリエはうろたえる事無く、絶縁状態になってしまう。やられたらやり返すタイプ？



兄：ヨーゼフ2世

世継ぎのマリーのお兄ちゃん。テレジアとフランツの長男。父フランツが亡くなると、母とともにオーストリア・ハプスブルク帝国のリーダーとなる。国をもっといい国にしようがんばるものの、何か上手くいかず志半ばで亡くなる。人生で2度結婚する。最初の妻を溺愛するが、その妻は2人目の子どもを出産時、母子ともに亡くなる。2人目の妻に対してはひどく邪険に扱い、その妻も当時流行っていた病気にかかり死んでしまう。自分が家のリーダーになると、敵国の王のファンになり母をイラつかせたりしていた。マリーの夫のルイ16世と仲良しになり、ぎくしゃくしていたマリー夫婦の仲を取り持ってくれたりした。



イワイとネーちゃん
カナは図書委員の巻
78

- 参考文献
- 『美術品でたどるマリー・アントワネットの生涯』 中野京子/著 NHK出版 (289.3/マ)
 - 『マリー・アントワネットの嘘』 惣領冬実・塚田有那/著 講談社 (289.3/マ)
 - 『ハプスブルク恋の物語』 新人物往来社/編 新人物往来社 (288.49/ハ)
 - 『ハプスブルク帝国』 新人物往来社/編 新人物往来社 (288.49/ハ)
 - 『名画で読むハプスブルク家の女たち』 宝島社 (288.49/メ)
 - 『ハプスブルク家「美の遺産」』 世界文化社 (288.49/ハ)
 - 『図説ヨーロッパの王妃』 石井美樹子/著 河出書房新社 (288.49/イ)
 - 『マリア・テレジアとその時代』 江村洋/著 東京書籍 (288.4/マ) ←小俣図書館のみ所蔵

名前、「マリア」
ばかりだな... それなの



伊勢市立伊勢図書館
指定管理者/株式会社図書館流通センター